

平成25年度予算について

経理部経理課

平成25年度予算及び事業計画は、3月28日(木)の学園理事会及び評議員会において承認されましたので、その概要をお知らせします。

本学の平成24年度の収支見込みは、3病院を中心とした収支改善の努力により、前年度に引き続き帰属収支差額ベースで黒字となる見通しです。具体的には、帰属収入の約4.3% (帰属収支差額比率) の約32億円の黒字が見込まれています。

そして、平成25年度は、診療報酬改定のない年(改定は2年に1度)であり、かつ、40周年記念事業としての教育医療棟建設や附属看護専門学校三郷校建設、大学病院本館耐震補強工事等の大型事業が計画されており、収支状況が大変厳しくなることが予想されます。

しかし、このような状況下においても、平成25年度の予算編成にあたっては、将来を見据えた財政基盤の強化に重点を置き、前年度と同額程度の黒字を確保する予算としています。この予算を達成するためには、これまで以上に収支改善の努力が必要となりますが、創立40周年という節目となる年が良き年となるよう、また、50周年、100周年に繋げていけるように教職員一丸となって取り組んでいきましょう。

予算のポイント、事業計画概要及び消費収支予算・資金収支予算は次の通りです。

■ 予算のポイント

平成25年度予算は、教育・研究・診療の充実とそれを支える財政基盤の確立を基本とし、限りある財源を効率的に配分することを課題として、各分野にバランスのとれた予算配分となるよう配慮しました。

各会計単位の重点施策は次のとおりです。

1) 医科大学関連

(1) 医学部定員

文部科学省は、医師不足に対応するため医学部の定員増を認めることとなり、これを受け平成25年度は入学定員を120名(栃木県地域枠として2名増)で計上しました。

この入学定員増は、国が都道府県における医療課題の解決を図るために策定した地域医療再生計画の一環により図られたものであり、この栃木県地域枠で本学に入学する学生は、栃木県から医師修学資金の貸与を受けることができ、また、卒業後は栃木県職員として県内の公的機関等で一定期間医療に従事することとなります。

(2) 学務関係

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムを基本としたカリキュラム構成となっており、効果的な教育体制を構築するために関係経費を計上しました。主な経費としては、一般的な経費以外に早期体験実習、学生の海外研修、共用試験CBT・OSCEに係る事項や医師国家試験対策としてのビデオ学習の援助、短期集中合宿の開催などがあります。

(3) キャンパスの環境の整備

従来から教育環境の改善としてカリキュラムや講義・実習方法などのソフト面の改善とともに、講義・実習室や周辺環境などのハード面の改修に対し鋭意取り組んでいます。平成25年度においては、学生に対する良質なアメニティの提供をより推進するため、実習棟実験換気改修工事、図書館改修工事、看護学部棟学術ネットワーク構築等の工事を盛り込むこととしました。学生のニーズや時代のニーズに即した多様な教育に対応できる環境を整えるべく、これらの経費として総額1億円を計上しました。

(4) 看護師対策

全国的な看護師不足が広がる中、本学においても看護師確保が困難な状況であり、深刻な問題となっています。平成25年度においても、これまで以上に全学を挙げて積極的に募集活動を行い、大学病院・越谷病院・日光医療センターの7対1看護体制の維持及び患者サービスの維持・向上を図ることとしました。

(5) 教職員・学生寮の環境の整備

3年次計画の平成25年度支払分として7億87百万円を予算計上しました。

(6) 附属看護専門学校三郷校新設準備

全国的な看護師不足が広がる中、各病院の7対1看護体制を維持するために、看護師の確保を目的として、平成27年度に三郷市に看護専門学校を新設することとしました。

平成27年4月の開校に向け準備を進めることと

し、その建設費用として5億4百万円を予算計上しました。

(7) 創立40周年記念事業

創立40周年記念事業として、教育医療棟(大学・大学病院)の建設費用として総額約59億円を計上しました。そのうち、平成25年度支払分として教育医療棟の建設費用21億4百万円及び記念式典費用23百万円の総額21億27百万円を予算計上しました。

2) 大学病院関連

(1) 医療収入と医療経費

平成25年度は診療報酬改定がない年であることから、いかにして増収へ繋げていくかが大きなポイントでした。

当院では、現行の医療制度を適切に評価・分析し、7対1看護体制を維持しつつ、DPC制度に配慮した在院日数の短縮や病床稼働率の維持、患者一人当たり単価のアップ等、様々な施策により医療収入の増収を見込みました。また、医療経費では、後発医薬品への切り替えや医療材料の統一化、物品調達適正化等により引き続き努力し、平成24年度見込比0.3ポイントの縮減とし、更なる収支改善(医療粗利益の増加)を図る予算編成としました。

(2) 診療体制の整備

当院では、安全で質の高い医療を提供するため、毎年医療設備やシステムの充実を図り、地域の中核病院としての役割を果たすべく努力しているところです。

平成25年度においては、検査機器及び検査システムの更新費用として13百万円(リース総額1億58百万円)、耳鼻咽喉・頭頸部外科電子カルテの導入費用として12百万円(リース総額1億20百万円)、地域医療連携システム(とちまるネット)の整備費用に44百万円を計上し、更なる患者サービスの向上を目指し、引き続き診療体制の整備充実に努めるべく予算配分を行いました。

なお、地域医療連携システム(とちまるネット)は栃木県の地域医療再生計画の地域医療連携システム整備支援事業補助対象(40百万円を上限に2/3)となるため、補助金収入として26百万円を併せて計上しました。

(3) 栃木県ドクターヘリ事業

平成22年1月に当院を基地病院として開始された栃木県ドクターヘリ事業は、予想をはるかに上

回る運航件数で順調に遂行されています。3年目を迎えた平成24年度は、運航件数が初年度の約2倍の700件を越える見込であり、事業開始以来着実に実績を上げています。

今後も引き続き効率的な運航を可能とするために、平成25年度予算ではドクターヘリ運航委託料1億89百万円、ヘリポート保守料2百万円及びヘリポート修繕費3百万円の必要経費を計上しました。

なお、国と県からのドクターヘリ運営費補助金2億11百万円も併せて計上しました。

(4) 本館耐震補強工事

大学病院の本館は昭和47年当時の耐震基準に基づいて設計・建設されており、現在の耐震基準には適合していません。東日本大震災以降、建物の耐震が重要視されていることに加え、災害拠点病院としての役割を担っている当院は、今後起こり得る震災等の災害時も病院機能を維持しなければならないことから、耐震の強化を図るために早急に本館の耐震補強工事を実施することとしました。

平成25年度予算では、約7年かけての本館耐震工事計画のうちの2年目の工事費用及び耐震設計、監理費用として1億80百万円、併せてRI棟耐震診断及び設計費用として20百万円を計上しました。

3) 越谷病院関連

(1) 救命医療体制施設・設備整備

埼玉県の地域医療再生計画として、救命医療体制の充実強化を図る目的で、施設・設備の整備を推進する事業が計画されています。

上記事業に伴い、当院の収入面では、医療施設等設備整備費補助金の受入れとして1億5百万円を計上しました。

また、支出面では、「多機能画像診断・血管内治療システム(DSA)」購入費として2億37百万円を計上し、当事業を含めた放射線機器の集約化を図る為に院内施設改修費として4億50百万円、改修工事費として40百万円を計上しました。

(2) 高エネルギー放射線治療システム整備に伴う施設工事

導入後12年経過している「高エネルギー放射線治療システム(ライナック)」の購入(平成26年度予定)を目的に、ライナック棟新築工事費用として4億円を計上しました。

(3)放射線機器整備

放射線機器(CT)の老朽化に伴い、整備費用として2億円を計上しました。

(4)オーダーリングシステムの更新・拡充

オーダーリングシステムの充実・更新を目的として、〔高精細モニター更新費として45百万円(5年間リース料総額)、産科婦人科システム導入費として32百万円(5年間リース料総額)〕の2点を含む総額1億49百万円を計上しました。

4) 日光医療センター関連

(1)地域医療の推進と連携強化・質の高い医療の提供

地域社会の基幹病院として、更なる、県北西部の地域医療機関との連携強化を推進しながら、診療体制の維持・強化に努めます。また、信頼される安全で安心できる質の高い医療を引き続き提供し、チーム医療の推進等により急性期の医療機能の更なる強化に取り組み、コストパフォーマンスの高い運営を維持するため、7対1看護体制を堅持しつつ、DPC制度に配慮した在院日数の短縮と病床稼働率の向上に努めます。

平成25年度の患者計画は、外来が年間平均で1日355名、入院が年間病床稼働率86.5%の172名を目標としました。

(2)経営の効率化・合理化

病院経営の安定化、効率化、合理化を更に進め、引き続き経費の削減に努め、収支差額のバランスを図ります。

なお、医療収入に対する経費率は、平成24年度見込み28.0%を下回る27.3%を目標としています。

(3)電子カルテシステム更新

医療の質向上及び医療安全の推進等を目的に次期電子カルテシステム(HOPE/EGMAIN-GX)へ

の更新及び各部門システムの更新並びに画像システム(RIS・PACS)更新費用として5億72百万円(リース契約)、平成25年度支払額1億14百万円を計上しました。

(4)創立40周年記念事業

40周年記念事業における最終年度としての事業計画には、昨年に引き続き院内環境整備に重点を置き(会議室を含めた本館6階フロアの再整備等)、これらに係る費用として総額で71百万円を計上しました。

5) 附属看護専門学校関連

(1)国家試験対策

附属看護専門学校では、学生を看護師国家試験に合格させることが重要であり、合格率により、受験生が当校を選択する指針となっていることから、全教員協力の下、国家試験対策に取り組んでいます。平成25年度予算では、前年度に引き続き、模擬試験の受験、夏期・冬期の講習及び教員セミナー等の実施経費を計上しています。

(2)教育機器の整備

附属看護専門学校では、臨床現場の最前線で働く「臨床看護実践力の高い看護師」の育成を目指しています。そのためには、学内演習を充実させ臨床実践能力の強化を図る必要がある為、前年度に引き続き、シミュレーションモデル(教育研究用機器備品)に2百万円と実習用機器(用品費)に2百万円を計上しました。

(3)創立40周年記念事業

本校は、平成26年度に創立40周年を迎えます。創立40周年記念事業として、開学以後初めて、記念誌を編纂することとなり、20百万円を計上しました。

■ 事業計画概要

(単位:百万円)

事業名	事業内容	25年度予算
(医科大学)		
1. 教学関係		
【医学部】		
1) 全国共用試験	1) CBT: コンピューターによる医学知識試験の実施 OSCE: 「医療面接」「頭頸部」「胸部」等7つのステーションでの模擬患者を相手とする実技試験の実施 (ともにH17年より実施)	4.6 0.9
2) 早期医学・地域医療体験	2) 期間集中型科目「コミュニティーヘルスインターンシップI」「アドバンスドコミュニティーヘルスインターンシップ」、選択科目「地域包括医療実習」の開設による本学附属病院や学外の福祉施設等での体験学習の実施	2.4
3) 学生の海外研修	3) 学内試験選抜の学生の海外大学病院における約2週間の見学実習の実施(H13年より実施)	10.0
4) 医師国家試験対策合宿	4) 卒業試験・医師国家試験の合格に向けて、約1週間の短期集中合宿を実施(H12年より実施)	3.0

事業名	事業内容	25年度予算
5) 国際交流等の拡充・充実	5) 国際交流の拡充や支援、海外大学との提携等の検討、海外視察の実施	5.0
6) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	6) 本学を含む国公立8大学の共同申請による「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」に参加	5.0
【看護学部】		
1) 領域別臨床看護学実習	1) 小児・母性・成人・老年・精神・地域の各領域における実習の実施	1.9
2) ふれあい看護学実習Ⅰ・Ⅱ	2) 看護の役割等の習得や疾病障害を持つ人々の心身の状況と生活等の学習のため学外実習を実施	1.5
3) 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ	3) 病院において、患者の心理状態や良好な人間関係の構築等の学習及び入院患者の生活環境の理解や看護援助の必要性・重要性を体験学習	0.5
4) 地域看護学実習Ⅱ	4) 企業の健康管理、学校保健、産業保健活動の実際を環境調整・安全管理の視点から指導保健師と共に地域活動を実践	1.1
5) 国家試験対策	5) 国家試験対策コーナー等の環境整備、模擬試験・特別講義等の実施(H22年より実施)	3.5
6) 学生の海外研修	6) 海外の医療、看護業務の学習及び国際感覚を習得するため海外にて1週間程度の実習の実施	1.8
7) 学生情報・成績管理システム更新	7) 学生情報・成績の一元管理のための新システム導入	2.5
【助産学専攻科】		
1) 学生情報・成績管理システム	1) 看護学部で導入するシステムに助産学専攻科対応の機能追加	1.5
2.施設・設備関係		
1) 教育医療棟建設 ＜創立40周年記念事業＞	1) 教育医療棟の建設	2,104.2
2) 教職員・学生寮建設	2) 教職員・学生寮の建設	786.8
3) 附属看護専門学校三郷校建設	3) 附属看護専門学校三郷校の新校舎建設他	503.6
4) 各大学棟用途変更による改修工事	4) 教室・研究室の改修工事	90.0
5) 教育研究・実習用機器備品	5) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	380.0
6) 図書	6) 教育研究用図書の整備充実	41.9
7) 車輛	7) 学長車の更新	6.6
3.管理運営関係		
1) 創立40周年記念式典 ＜創立40周年記念事業＞	1) 創立40周年記念式典の開催	23.3
2) 学生・教職員駐車場管理	2) 学生・教職員駐車場整備後の利用者登録・巡回業務の外注化	18.0
3) ホームページリニューアル	3) ホームページの全面リニューアル	10.0
4) 図書館システム更新	4) 雑誌管理に特化し文部科学省からの要請でもある機関リポジトリ対応の新システム導入	4.6
(大学病院)		
1.医療活動関係		
1) 統合医療情報システム	1) 電子カルテシステム、オーダーリングシステム、PACSシステムの維持管理	541.7
2) PETセンター	2) PET(陽電子放射断層撮影装置)によるガンの早期発見、詳細な部位の特定	396.6
3) 栃木県ドクターヘリ事業	3) ドクターヘリ運航業務の委託他	193.9
4) ガンマナイフ用コバルト線源交換	4) 経年劣化によるガンマナイフ用コバルト線源の交換	143.0
2.施設・設備関係		
1) 本館耐震工事(2/8期)	1) 耐震補強工事(設計・監理費20.0を含む)	180.0
2) 新館及びエネルギー棟設備更新工事(3/3期)	2) 新館及びエネルギー棟の設備更新工事	150.0
3) 新館1階血管造影室改修(手術室に変更)工事	3) 手術室増室及び設備更新工事	150.0
4) 用途変更による改修工事	4) 室内改修工事	100.0
5) 本館一次空調機更新工事	5) 空調機の更新工事	60.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	700.0
7) 検査機器及び検査システムの更新	7) 検査機器及び検査システムの更新	158.4
8) 耳鼻咽喉・頭頸部外科電子カルテ導入	8) 画像データマネジメントシステムClaioの導入	120.0
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	50.0
(越谷病院)		
1.医療活動関係		
1) オーダーリングシステム	1) オーダーリングシステムの構築、各種システム更新	553.0
2) SPD業務委託導入	2) 薬剤部における在庫管理、消費データ管理等の外部委託	13.9
3) 渡航外来開設	3) 腎・予防医学センター内に渡航外来開設に係る関連備品の購入他	9.5
4) 形成外科開設	4) 形成外科開設に係る関連備品の購入他	2.9
2.施設・設備関係		
1) 研究棟2階放射線部改修工事	1) 越谷病院整備計画による放射線集約に伴う改修工事	490.0
2) ライナック棟新築工事	2) ライナック棟の新築工事	400.0
3) 空調機・換気機等更新	3) 経年劣化による更新工事	100.0
4) 給排水配管更新	4) 経年劣化による更新工事	100.0
5) 医療設備機器整備	5) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備(放射線機器の整備200.0、埼玉県地域医療再生計画に伴うDSA導入237.0を含む)	737.0
6) オーダーリングシステム更新	6) オーダーリングシステムのリース機器導入及び更新	148.6

事業名	事業内容	25年度予算
(日光医療センター)		
1.医療活動関係		
1)業務外注化	1)施設管理、検体検査、医事業務、給食、情報処理等の外部委託	263.6
2)保険請求公費負担等の一部修正作業	2)保険請求区分等のシステム変更作業	3.0
2.施設・設備関係		
1)本館6階フロア整備 <創立40周年記念事業>	1)会議室を含めた本館6階フロアの再整備等	71.0
2)ナースコール更新工事	2)経年劣化による4病棟のナースコール更新	45.0
3)2号館改修	3)経年劣化によるトイレ改修工事他	20.0
4)医療設備機器整備	4)大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	100.0
5)電子カルテシステム更新	5)電子カルテシステムの更新	389.6
6)部門システム更新	6)部門システムの更新	94.6
7)画像システム(RIS・PACS)更新	7)画像システム(RIS・PACS)の更新	87.6
(看護専門学校)		
1.教学関係		
1)体験学習	1)看護に必要な技術を習得するため、技術演習や小グループによる体験学習を実施	3.6
2)領域別看護学実習	2)各領域において3週間1クールとして病院や施設での実習を実施	2.0
3)学生情報・成績管理システム	3)学生情報・成績管理システムのカスタマイズ	1.2
4)専任教員の研修・研究	4)看護教育内容、方法の改善や教員の質の向上を図るため、学外の研修会や研究会への参加	1.1
2.設備関係		
1)シミュレーションモデル整備	1)教育研究・実習用機器備品の整備充実	1.7
2)校歌額縁	2)書画の修復及び額縁更新	0.3
3.管理運営関係		
1)記念誌発行 <創立40周年記念事業>	1)創立40周年記念誌の発行	19.6

消費収支予算の概要

2013(平成25)年度消費収支予算書 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位：百万円)

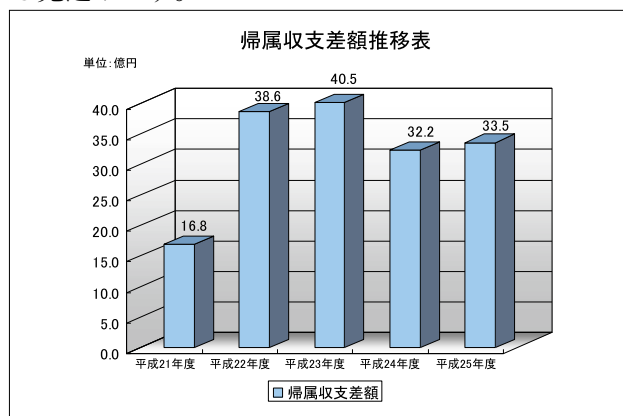
支出の部					収入の部				
科	目	平成25年度 予算額	平成24年度 決算見込額	増減	科	目	平成25年度 予算額	平成24年度 決算見込額	増減
人件費		30,842	29,479	1,363	学生生徒等納付金		5,113	5,072	41
教育研究経費		41,115	39,771	1,344	手数料		191	192	△1
(医療経費)		(26,256)	(25,568)	(688)	寄付金		1,602	1,480	122
(一般経費)		(9,905)	(9,918)	(△13)	補助金		3,264	2,893	371
(減価償却費)		(4,954)	(4,285)	(669)	(国庫補助金)		(2,609)	(2,297)	(312)
管理経費		2,579	2,458	121	(地方公共団体補助金)		(652)	(595)	(57)
(一般経費)		(2,236)	(2,122)	(114)	(その他補助金)		(2)	(2)	(0)
(減価償却費)		(343)	(336)	(7)	資産運用収入		533	484	49
借入金等利息		18	18	0	資産売却差額		0	0	0
資産処分差額		77	30	47	事業収入		417	391	26
徴収不能引当金繰入額		103	82	21	医療収入		67,119	64,638	2,481
徴収不能額		0	0	0	雑収入		94	111	△17
予備費		40	0	40	法人負担金収入		32	38	△6
法人負担金		245	237	8	帰属収入合計(A)		78,365	75,299	3,066
					基本金組入額(△)		△6,297	△7,190	893
消費支出の部合計(B)		75,019	72,075	2,944	消費収入の部合計		72,068	68,109	3,959
当年度消費支出超過額		△2,951	△3,966	1,015					
帰属収支差額(A-B)		3,346	3,224	122					

【解説】消費収支計算は、当該会計年度の消費収入と消費支出の内容とその均衡の状態を明らかにするために行います。帰属収入(負債とならない収入)から基本金組入額(施設設備などの取得に充てる額)を控除して、消費支出に充てることのできる消費収入(帰属収入-基本金組入額)を算出し、この消費収入と消費支出を対比して均衡の状態をみます。企業会計の損益計算書に似た性格のものです。具体的には、人件費、消耗品費、光熱水費、修繕費などの経常費用をどのような収入で賄っているかみるためのものです。

帰属収入は、前年度見込比41%、30億66百万円増となる783億65百万円を計上しました。この主な要因は、創立40周年記念事業に係る寄付金や経常費補助金等の各種補助金の増収及び3病院の医療収入の増収によるものです。特に医療収入に関しては、3病院とも患者数、患者1人1日当たり単価、病床稼働率のアップ等、積極的な取り組みにより増収としました。

一方、消費支出は前年度見込比41%、29億44百万円増となる750億19百万円を計上しました。この主な要因は、人件費（定期昇給、看護師確保対策等）及び医療収入増に伴う医療経費等の増加によるものです。

その結果、帰属収支差額は、前年度見込比3.8%、1億22百万円増となる33億46百万円の収入超過（黒字）を確保できました。なお、帰属収支差額比率は4.27%です。また、内部留保は87億20百万円となる見込みです。



1.消費収入

○学生生徒等納付金

医学部新生120名、大学院医学研究科26名、看護学部新生100名・3年次編入生7名、大学院看護学研究科新生10名、助産学専攻科新生10名を見込み授業料その他を算出し、前年度見込比0.8%、41百万円増の51億13百万円を計上しました。（うち看護専門学校分1億39百万円）

○寄付金

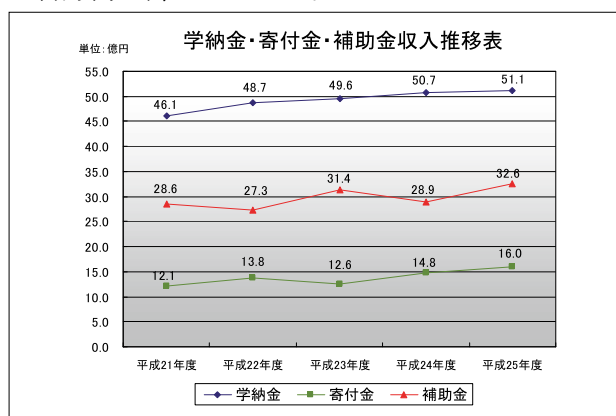
厳しい社会経済情勢を反映し今後とも増収は見込めない状況ですが、受配者指定寄付制度や免税措置（税額控除・所得控除）等の寄付者へのメリットをアピールし、積極的に寄付金獲得活動に取り組みます。また、昨年度に引続き地域医療再生計画に基づく臨時特別交付金（寄付金講座設置事業）として1億38百万円を見込んでいます。

さらに、創立40周年記念事業に係る寄付金3億円

を計上し、総額で前年度見込比8.2%、1億22百万円増の16億2百万円を計上しました。

○補助金

経常費補助金は、調整係数見直しや補助圧縮率減少等を考慮して、前年度見込比12.8%、2億34百万円増の20億63百万円を計上しました。また、その他主な補助金として、文部科学省施設設備関係補助金1億12百万円、大学病院のとちぎ子ども医療センター運営費補助金80百万円、総合周産期母子医療センター運営費等補助金1億円、ドクターヘリ運営費補助金2億11百万円、越谷病院の救命救急センター運営費補助金59百万円等を計上しました。総額で前年度見込比12.8%、3億71百万円増の32億64百万円を計上しました。



○医療収入

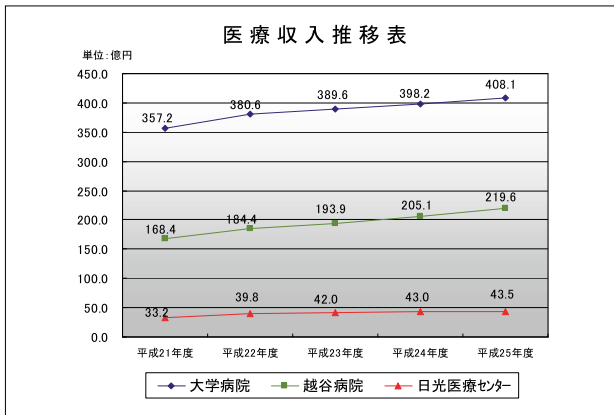
3病院（大学病院・越谷病院・日光医療センター）とも7対1看護体制を継続しつつ、DPCに配慮した在院日数と高水準な病床稼働率を維持することにより前年度を上回る予算を計上しました。また、入院収入・外来収入ともに患者1人1日当たり単価アップにより増収予算を計上しました。

入院収入：前年度比3.1%、12億96百万円増の434億81百万円

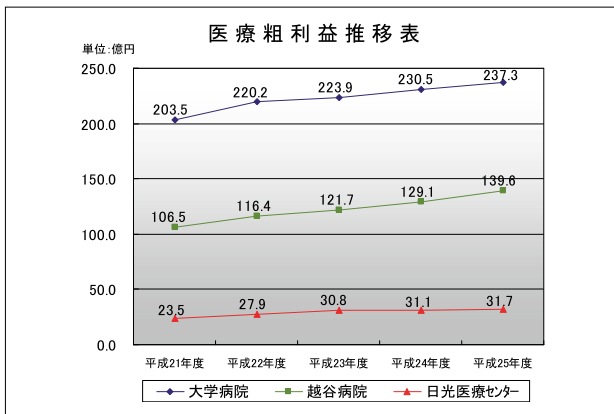
外来収入：前年度比4.5%、9億10百万円増の210億48百万円

室料差額：前年度比0.6%、12百万円増の19億32百万円

総 額：前年度比3.8%、24億81百万円増の671億19百万円



また、病院の医療活動から直接得られる利益である医療粗利益(医療収入-医療経費)については、3病院合計で前年度見込比0.5%、17億93百万円増の408億63百万円となりました。



2.消費支出

○人件費

教員人件費は、前年度見込比2.9%、2億31百万円増の83億26百万円、職員人件費は、前年度見込比4.3%、8億45百万円増の206億96百万円、退職金は、前年度見込比15.1%、1億39百万円増の10億60百万円、退職給与引当金繰入額は、前年度見込比18.9%、2億89百万円増の18億21百万円を計上しました。

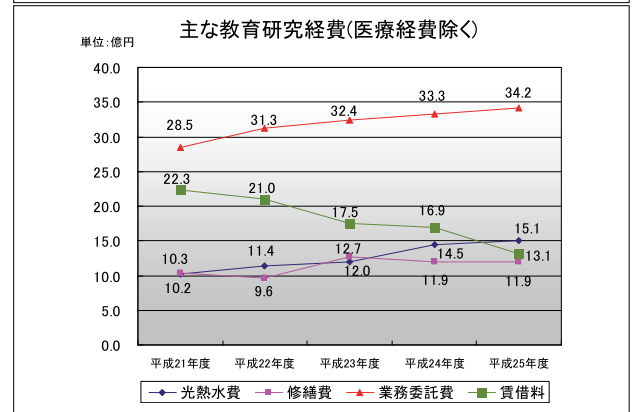
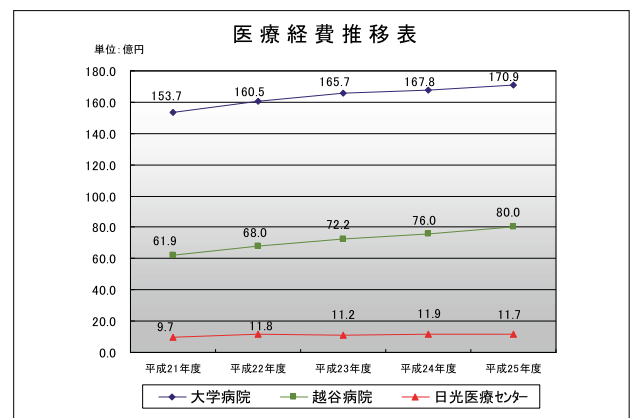
○教育研究経費

教育研究経費は、前年度見込比3.4%、13億44百万円増の411億15百万円を計上しました。

このうち医療経費は、総額で前年度見込比2.7%、6億88百万円増の262億56百万円を計上しました。

大学病院では、前年度見込比1.9%、3億13百万円増の170億88百万円(医療経費率43.5%)、越谷病院では、前年度見込比5.2%、3億94百万円増の79億95百万円(医療経費率37.0%)、日光医療センターでは、前年度見込比△1.6%、19百万円減の11億73百万円(医療経費率27.3%)を計上しました。

一般経費は、前年度見込比△0.1%、13百万円減の99億5百万円を計上しました。



○管理経費

管理経費は、前年度見込比4.9%、1億21百万円増の25億79百万円を計上しました。

○法人負担金

法人負担金は、前年度見込比3.4%、8百万円増の2億45百万円を計上しました。

○徴収不能引当金繰入額

徴収不能引当金繰入額は、前年度見込比25.6%、21百万円増の1億3百万円を計上しました。

○借入金等利息

借入金等利息支出は、前年度同額の18百万円を計上しました。

■ 資金収支予算の概要

2013(平成25)年度資金収支予算書 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位：百万円)

支出の部					収入の部				
科 目	平成25年度 予算額	平成24年度 決算見込額	増	減	科 目	平成25年度 予算額	平成24年度 決算見込額	増	減
人件費支出	30,081	28,866		1,215	学生生徒等納付金収入	5,113	5,072		41
教育研究経費支出	36,161	35,487		674	手数料収入	191	192		△1
管理経費支出	2,236	2,122		114	寄付金収入	1,544	1,425		119
借入金等利息支出	18	18		0	補助金収入	3,264	2,893		371
借入金等返済支出	612	512		100	(国庫補助金収入)	(2,609)	(2,297)		(312)
施設関係支出	5,768	5,597		171	(地方公共団体補助金収入)	(652)	(595)		(57)
設備関係支出	3,206	4,664	△1,458		(その他補助金収入)	(2)	(2)		(0)
資産運用支出	13,000	10,011		2,989	資産運用収入	533	484		49
その他の支出	11,088	10,579		509	資産売却収入	0	0		0
法人負担金	245	237		8	事業収入	417	391		26
予備費	40	0		40	医療収入	67,119	64,638		2,481
資金支出調整勘定	△10,513	△11,393		880	雑収入	94	111		△17
					借入金等収入	1,000	2,000		△1,000
					前受金収入	1,461	1,460		1
					その他の収入	22,546	19,028		3,518
					法人負担金収入	32	38		△6
					資金収入調整勘定	△13,843	△13,370		△473
次年度繰越支払資金	5,879	8,350		△2,471	前年度繰越支払資金	8,350	10,688		△2,338
支出の部合計	97,821	95,050		2,771	収入の部合計	97,821	95,050		2,771

【解説】 資金収支計算は、当該会計年度の教育研究診療活動に対応するすべての収入・支出の内容並びに支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするために行うものです。具体的には、組織の活動に伴ってどれだけお金が入ってきて、どれだけ出ていったか、その結果、お金がどれだけ残ったかを明らかにするものです。このため消費収支計算書に計上されていない「借入金等収入」「前受金収入」「借入金等返済支出」「施設関係支出」及び「資産運用支出」等が資金の収入・支出を伴うため計上されます。一方、消費収支計算書に計上されている「基本金組入額」「減価償却費」等は資金を伴わないため資金収支には含まれていません。

資金収支予算は平成25年度の収入及び支出に関わるすべての資金を計上しています。以下、消費収支予算と重複するものを除いて主な項目について説明します。

1. 資金収入

○借入金等収入

安定した資金繰りを勘案して長期借入金10億円を計上しました。

○前受金収入

前受金収入は、前年度見込とほぼ同額の14億61百万円を計上しました。

○その他の収入

その他の収入は、退職給与引当特定資産からの繰入収入が2億円、減価償却引当特定資産からの繰入収入が28億円増加したこと等により、前年度見込比18.5%、35億18百万円増の255億46百万円を計上しました。

○前年度繰越支払資金

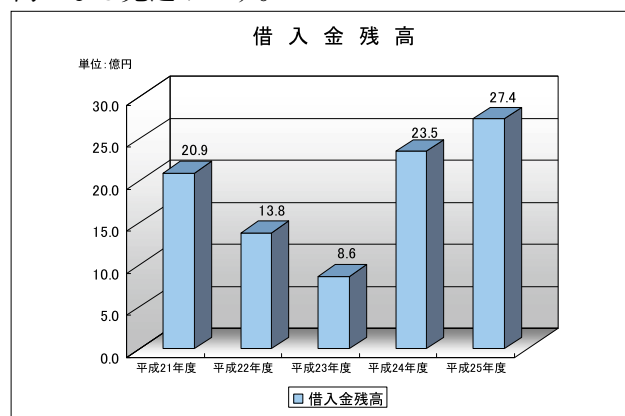
前年度繰越支払資金は、前年度見込比△21.9%、23億38百万円減となる83億50百万円を計上しました。

2. 資金支出

○借入金返済支出

借入金返済支出は、前年度見込比19.5%、1億円増の6億12百万円（市中金融機関からの長期借入金の約定償還分）を計上しました。

なお、平成25年度末の借入金残高は27億40百万円となる見込みです。



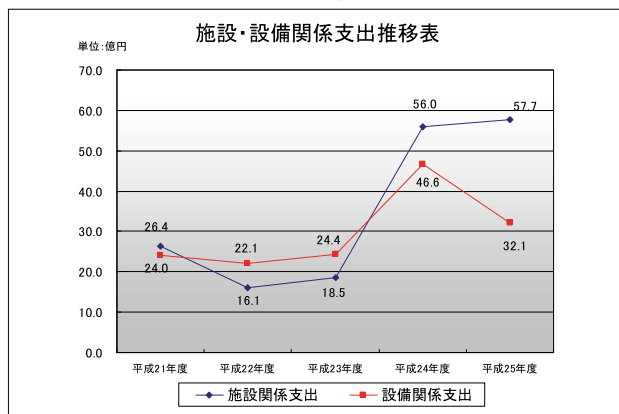
○施設関係支出

施設関係支出は、創立40周年記念事業にともなう教育医療棟の建設、教職員・学生寮建設、附属看護専門学校三郷校建設、大学病院本館耐震工事

等、前年度見込比3.1%、1億71百万円増の57億68百万円を計上しました。

○設備関係支出

設備関係支出は、前年度見込比△31.3%、14億58百万円減の32億6百万円を計上しました。



以上、平成25年度予算の概要を説明しました。

予算執行に当たっては、これまで以上に教職員一人一人が当事者意識を持って経費節減に取り組むとともに、実施する内容の必要性、緊急性を再度十分に検証していただくようお願いします。

なお、予算内容について、ご不明な点、ご質問等がありましたら、大学事務局経理課までご照会ください。

○資産運用支出

資産運用支出は、将来の大学・病院の建替等将来の備えとして、減価償却引当特定資産を30億円積み立てる計画とし、前年度見込比29.9%、29億89百万円増の130億円を計上しました。

○その他の支出・資金支出調整勘定

その他の支出は、110億88百万円、資金支出調整勘定は、105億13百万円を計上しました。

○次年度繰越支払資金

次年度繰越支払資金（年度末現預金）は、前年度見込比△29.6%、24億71百万円減の58億79百万円となる見込みです。